

## 編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌  
編集委員長  
西 信 雄

会員の皆様には、平素より本誌の発行につきましてご協力をいただき感謝申し上げます。編集委員会では、全国の会員の皆様に有用な公衆衛生的意義のある論文を掲載すべく、支援的な査読に取り組んでいます。本号では下記についてご確認いただきたく、お知らせいたします。

### 1. 投稿原稿の種類

昨年11月に投稿規定を改定し、投稿原稿の種類は短報と研究ノートとを廃止しました。以前より、せっかく原著で投稿しても研究ノート等への変更を求められ、原著としての研究業績とすることができないという会員のご意見がありましたので、それに対応したものです。結果的に査読期間の短縮にもつながると考えられることから、今後投稿論文数が増加することを期待しています。

### 2. オーサーシップ

日本医学会の医学雑誌編集ガイドライン(2015)では、オーサーシップ(著者資格)について、「著者とは、論文の根幹をなす研究において多大な知的貢献を果たした人物である。研究組織の同僚(peer)や長というだけで、実質的な貢献のない人を著者に入れるのは誤りである。」とあります。このオーサーシップに該当する方を過不足なく著者にリストして、投稿くださるようお願いいたします。なお本年1月から、投稿規定の第1項にある「本誌への投稿は共著者も含めて日本公衆衛生学会会員であることを原則とする。」という規定にもとづき、著者の入会の有無を投稿時に厳格にチェックしていることを申し添えます。

### 3. 行政機関が収集したデータを利用した研究

日本公衆衛生雑誌には、行政機関に所属している会員からも多くの投稿が寄せられます。地域保健の現場からの報告は、本誌において貴重なものです。ただ、行政機関が収集したデータを利用した研究には多くの制約があります。収集したデータを研究目的で使用する場合は、行政機関が外部機関と共同研究を行う場合には、収集した個別データの利用・外部機関へ提供することについて条例、規則等で要件が定められていることが一般的なため、個人情報を含まない場合でもそれらを遵守した取扱いが必要です。以上の点にご留意の上、積極的に投稿くださるようお願いいたします。

### 4. 用語の使用

日本公衆衛生雑誌が扱う課題は広範囲で、今日的な社会問題が取り上げられることも少なくありません。最近、編集委員会で議論した問題の中に、「嫁」や「姑」の表記に関するものがありました。要介護者と主な介護者の続柄を研究対象とすること自体を問題とするものではありませんが、たとえ調査票で「嫁」や「姑」が用いられていたとしても、その表記を論文でも用いることが適切と言えるかという観点での議論でした。編集委員の間でも意見が一致せず、継続的に審議することになりました。会員の皆様にも問題意識を共有いただきたく、ご報告する次第です。

引き続き会員の皆様からの奮ってのご投稿をお待ちしています。